

第5検討部会 会議録

会議の名称	第29回 第5検討部会
開催日時	平成21年1月13日(火)10時00分から12時01分
開催場所	職員会館 会議室
出席者	(部会長)石井副委員長 (副部会長)豊田委員 (委員)庵地委員、伊田委員、木岡委員、北原委員、椎橋委員、山田委員
会議内容	第13回運営調整部会の報告 手引書(案)の内容検討 運用推進委員会の内容検討
会議資料	第13回運営調整部会資料
発言内容	<p>第28回部会の議事録の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・承認</li> </ul> <p>第13回運営調整部会等の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月8日開催の第12回運営調整部会の報告(部会長)</li> <li>・条例(案)は修正して了承されたことを報告。</li> <li>・運用推進委員会の基本的考え方を説明。</li> <li>・名称の決め方について説明。</li> </ul> <p>条例が了承されたことについての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急ぎすぎだという議論があったはずだがどうなのか。</li> <li>・一人一人感じ方はちがうのだろう。二百何十回もやっているのだから充分と感じる人もいる。</li> <li>・運営調整部会でもそういう話は出るが少数意見だ。</li> <li>・この部会でも少数意見なのか</li> <li>・もう少し時間をかけて市民の意見を聞いてもいいのかなとは思っている、一方で、これ以上議論してもしょうがないかなという気もしている。</li> <li>・拙速だと思うし、一歩止まるというゆとりも大切だと思う。ただ全体の流れとして止められない。早くまとめたいたいという意見がある。</li> <li>・すでに息切れしてしまっている委員が出てきているという話も聞く。これ以上長引いては全体の議論にならないという不安がある。起草委員会が連日開催になっているのも終わりが決まっているからだが、全体の流れから、運用推進委員会という「育ての親」に託して、我々「生みの親」は世に出すのだと納得するほかない。</li> <li>・いくら議論しても考えの異なり平行線をたどる部分もある。その意味では議論は充分、あらかた尽くされた。期限が押し詰まって起草委員会が連日開催になっている点も、もし2年半や3年間あったとしても、その分は平行線を少し近づける議論に費やされて、結局最後の詰めの部分は</li> </ul>

同じように起草委員会のような組織で短期間にまとめることになるだろう。まずは「生みの親」として期限の中でやることをやって、次に大切に育ててもらおうということでいいかと思う。

- ・ 全くの素人が集まって議論をしてきた。最初の年は勉強会に費やして、ここにきて短期間でまとめてきた。それが全体から見ると急激に見えるのだろう。しかし、全般には北原さんと同意見で、あまり長い期間やっている都合が悪くなる方もでてくる。決められた任期の中で結論を出したほうがいいかと思っている。
- ・ 5年なら5年、2年なら2年の議論のやり方があったのだろう。急ぎすぎだという意見にしても会議で話されてきている。人によってどこまで議論すればいいのかは違ってくると思うので、2年というゴールを決めた上でがんばってきたことが大切だ。これは話し合っただけで了承して出来上がってきたもので、少数意見も咀嚼されているのだと思う。
- ・ 平行線は確かにあるが、委員会の中では充分議論はしてきたとは思っている。ただ、委員以外の市民とのやり取りが足りなかったかとは感じている。息切れというのも確かに感じるので、今の委員会をどうしても残せというわけではないが、運用推進委員会が立ち上がるまでどうやって市民の意見を取り入れ、運用に生かしていくか知恵を出すことは出来ると思う。
- ・ 運用推進委員会では、広報・PIの役割が大切になってくるかと思うので、そこはきちんと決めておきたい。
- ・ 広報PIチームとしては、運用推進委員会が設置されるのが半年先というので、その間どのように広報・PIを進めるべきかを運営調整部会に提案しようと考えている。
- ・ 最初の1年は勉強の時間であった。最後に急に進展し、あわててまとめたとの感はある。しかしながら、私も議論を尽くしたという意見である。伸ばしたら議員も改選があるかもしれない。任期の中でやるのが基本である。
- ・ 6ヶ月で進んだが、この間、編集委員会、起草委員会、運営調整部会、全体会議などさまざまな場面で議論をしてきた。話し合いの末の了承である。時期尚早の意見も常に組み入れ咀嚼して今に至っていると思う。
- ・ 繰り返しになるが、市民との対話が少ないと思う。今後、広報PIをどうするか運営調整部会でも充分議論して欲しい。
- ・ 運用推進委員会ができるので、そこで充分考えて欲しい。
- ・ ここで我々の任期を終えるほうがいい。
- ・ 条例は最大公約数のものとしてできていると思う。
- ・ 私の意見を言わせて頂くと、今回半数の委員が公募であり、議員も入って作成したということで市民の意見は十分入れている。2回のパブコメをするなど、委員以外の市民意見を徴集している。いくつかの自治体では条例が空中分解した所もある。これで条例ができれば、川口方式とい

うことで全国の自治体のモデルになるのではないか。運用推進委員会という仕組みも入っており、ここで生み出して、あとは次にバトンタッチするべきだと思う。(部会長)

- ・今回、議員が超党派というのもいい点である。
- ・市民への広報であるが、ケーブルテレビの視聴率も低いなど実際は市民は市政に無関心である。
- ・今回の策定方法は、これから市の計画を策定する時の基本パターンになるだろう。

手引きについて

(前文)

- ・主語が不明確で、文章、表現もおかしい。一から見直して欲しい。
- ・「一人ひとりが市民として育っていく、育てていこう」ということが大切である。そういう文言をどこかに盛り込んで欲しい。
- ・「子どもたちにも引き継いでほしい」という文言も盛り込んで欲しい。
- ・「ですます」調というようなことは入れないでもいいと思う。
- ・謳っていますという表現はわかりにくい、くどい。述べています程度でいいのではないか。

- ・ここで一つずつ議論したら時間が足りなくなる。今月中にもう1回部会を行うので、読んできて意見をまとめておいてほしい。

運用推進委員会について

- ・市民委員6名というのは中途半端。もっと多くてもいいと思う。
- ・団体枠が必要なのか。
- ・公募というと団体からの委員は出てこない可能性が高い。一方で、どの団体から選ぶのかは悩ましい。
- ・普通に考えると、2名であれば自治会と商工団体となる。
- ・団体枠はやはり必要である。町会、自治会などの組織の意見を拾うことも大切である。
- ・広報PIの実施まで委員会でやるのか。
- ・委員会は広報PIの企画検討までで、実施は市がボランティアなどと協力して行うことになる。
- ・人数的には14名というのは適当である。
- ・学識者はいいが、議員が入ることが適切か。削減するなら議員だと思う。
- ・議会につなげるためには入っていたほうがいい。
- ・任期は2年で最初の1年に半数が変わる。その後は1年ごとに半数交代となる。最初は1年任期の人が出る。3年目には継続の人はいなくなる。
- ・もしその後もやりたい人は公募で手をあげる。
- ・委員の人数はどんなに多くなっても20名。やりたい人を優先するべきである。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・策定作業の関わった人が多くなるのは構わない。</li> </ul> <p>今後の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1/23 に部会を持つことにする。それまでに手引書（案）に関して各自の検討結果を持ち寄って欲しい。</li> </ul>
次回以降日程	<p>第 14 回運営調整部会・全体会 1月 20 日（火）</p> <p>第 30 回検討部会 1月 23 日（金）10～12</p>